

マイクロ地域型サードプレイスを通じた技能実習生（育成就労者）の社会的包摂 ～ベトナム人技能実習生（育成就労者）と共創する八王子を目指して～

Social Inclusion of Micro-region Third Place for Foreign technical intern trainees Toward a Hachioji that Co-Creates with Vietnamese Foreign technical intern trainees

グループ名：中山賢司ゼミ 越境民班
学生氏名：前田心咲, 三上葵
指導教員 教員氏名, 中山賢司

所属先：創価大学法学部法律学科 中山賢司ゼミ

日本は少子高齢化の影響で、人手不足の問題が加速すると予測されている。それを解決するべく今期待されているのが、技能実習生の存在であるが、現在の日本の受け入れ態勢は非包摂型と呼ばれるようなものである。今後選ばれる日本、八王子にするために私たちはマイクロ地域型サードプレイスを提案する。

キーワード：技能実習生, 育成就労者, サードプレイス, 多文化共生, 国際交流

1. 研究背景と目的

近年、日本において深刻な少子高齢化が進み、各所で人手不足が加速している。そこで注目されているのが、外国人技能実習生（育成就労者）の存在である。しかし、技能実習生をただの労働力の補完として位置付け、様々な問題が生じている。この問題がこれから続けば、働く場所として選ばれ続けることはない。働く場所、住む場所として技能実習生に選ばれる日本になるにはどうすべきか。

技能実習生が日本を働く場所として選ぶ大きな理由の1つが、日本独自の高い技術力を学びたいからである。八王子市は優れた立地条件により、高水準の基盤技術を持つ中小製造業、独自の技術や製品を持つ中小企業があり、日本のものづくりの一端を担っている。このように、十分に働きたいと思わせる条件がある八王子市に焦点を当て、八王子市民と技能実習生が共に八王子を進化させる一環として、地域コミュニティ創設の提案を行う。また今回は、今後ベトナム人労働者との共生が大きな社会課題になると考え、本研究では日本におけるベトナム人技能実習生に焦点を当てて研究を進める。

2. 現状分析

技能実習生は職場の劣悪な環境、経済的な要因

として考えられる生活行動範囲の限界といった理由から、孤立状態になり人間関係の形成が難しくなっている。

ベトナム人技能実習生を初め、様々な外国人の方に日本語学習支援や、文化交流の場を設けている八王子国際クラブ代表の北田玲子さんにヒアリングを行った。北田さんは良心的な仕事場で働いている実習生はこのような場に参加する余裕もあるが、アクセスできる実習生は極少数であり、その理由として劣悪な労働環境や経済的な余裕のなさ、そして経済的な理由から行動範囲が広くないとおっしゃられていた。

また、彼らは日本で困窮する以前に膨大な借金を送り出し国のベトナムで背負ってきており、その返済のために少なくとも1年はタダ働き同然の状態に置かれている。

これらの状況を踏まえ、ベトナム人技能実習生は地域社会に頼りになる人と交流する場にアクセスできず、社会的な関係の構築から弾かれ、社会的に孤立していることがわかった。そのため、全てのベトナム人技能実習生がこの場にアクセスできる事を選択できる状態が必要不可欠であると考えた。

3. 提案

ここで私たちは、すべての技能実習生にアクセ

スが可能であり、包摂的な環境、または彼らと八王子市民が住みやすい共生のあり方を作るために「マイクロ地域型サードプレイス」の提案をする。

サードプレイスとは、「家庭や職場での役割から解放され、個人としてくつろげる場」である。そのサードプレイスは様々な特徴に分けられるが、私たちは今回の提案モデルをテーマ型サードプレイスに位置付ける。

空間性が高く、社会関係資本においては外向きで社会的亀裂を跨いで人々を包摂する「橋渡し役」の役割が重要であると考えられる。このようなサードプレイスの構築が、社会的コミュニティの孤立からの脱却のアプローチとして効果があると考えられる。また先述した通り、技能実習生は経済的な理由から行動範囲が狭くなるということを考え、マイクロ地域に根ざしたテーマ型サードプレイスとした。

4. 日越両者のニーズ

サードプレイス創設にあたって日越両者にメリットやニーズがあるのか。まず、ベトナム人技能実習生のサードプレイスのニーズについて調査した。

「奴隷労働」(2019 巢内)の取材で、あるベトナム人技能実習生がサードプレイスを人とのつながりの形成の場と考え、「心の拠り所」になっていると書かれていた。また、現在八王子市のスーパーアルプスで働いているベトナム人技能実習生の方々にお話を聞いた。

そして、八王子市側にもこのようなサードプレイスの存在にニーズがあるか調査した。株式会社サーベイリサーチセンターの日本人を対象とした調査によると、住んでいる地域に外国人が増えることによって交流が増えるということに好意的な印象を抱いている人は約 64%と比較的多かった。しかし、国際交流・多文化共生イベントに参加したいが、そのような「場」が地域にないため参加できてないという意見が 65%以上見られた。

また、このような多文化交流をしたいと考える年代区分を見た結果、若年層は 55%以上、得に 18-19 歳は約 70%以上が参加したいという結果だった。このことから、学園都市と呼ばれる八王子で十

分に国際交流・多文化共生を行う場を創ることは充分ニーズがある。

5. 選ばれる八王子、進化する八王子

少子高齢化が及ぼす影響は大きく、大きな社会問題として深刻化している。それは、人口減少と高齢化が地域経済を縮小させ、さらなる悪循環を加速させるからだ。そのようなことを踏まえ、八王子市は今後、「選ばれる八王子」になる必要がある。また、多文化共生を実現させる場合、日本人と外国人両者のニーズに沿ったものを考慮していかなければならない。それを実現することができれば、労働力の確保、若者世代の定住化が見込まれ、八王子市に経済の好循環し、進化し続ける八王子市になる。そこで、多様な人々を一つにする「心の拠り所」をサードプレイスによって実現していこうという思いを強く感じた。

5. 参考文献

『外国人との共生に関する意識調査(日本人対象)報告書(閲覧日:10月28日)

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001416010.pdf>

『地域・地方の現状と課題』(閲覧日:10月28日)

https://www.soumu.go.jp/main_content/000629037.pdf

『サードプレイス概念の拡張と検討』(閲覧日:10月29日)

<https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2021/07/pdf/004017.pdf>

『技能実習生の支払い費用に関する実態調査の結果について』(閲覧日:10月28日)

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001377469.pdf>

巢内尚子(2019)『奴隷労働:ベトナム人技能実習生の実態』

『八王子市の紹介』(閲覧日:10月31日)

<https://www.sanmachi-net.jp/hachiouji/>